

2020

10

October

No.219

JA とまこまい広域


SANSAN
光り輝く

特集

広域管内、稻刈り続々と始まる
実りの秋を迎える

収穫間近の稲穂(厚真地区)

JAとまこまい広域広報誌
燃々～光り輝く～
No.219

■編集・発行■

TEL 0145-2772241 FAX 0145-2773941
JAとまこまい広域本所
北海道勇払郡厚真町錦町10番地2令和2年10月10日
ホームページアドレス http://www.ja-tomakomai-kouiki.com
メールアドレス info@ja-tomakomai-kouiki.com

印刷 ■ 株式会社 須田製版

付議
事項

- 議案第1号 2年度米乾燥調製自主検定委員選任について
議案第2号 2年度大豆乾燥調製自主検定委員選任について
議案第3号 出資の減口と譲渡について

協議
事項

- 不祥事に係わる関係役員の処分について
- 災害救援金の活用策について
- 2年度米集荷販売に係る取組方針について
- 2年度特定米穀、小豆、大豆等の集荷取扱要領について
- 2年度施設調整米仮払金要領について
- 10月1日からの営業時間及び営業期間・時間の変更検討について
- 第2四半期仮決算(収支予測)について

報告
事項

- 一般報告と当面する諸行事について
 - 7月末財務報告について
 - 9月1日現在、農作物の作況について
 - 組合員の異動について
 - 第2四半期余裕金運用について
 - 外部出資先の経営概要について
 - 固定資産の取得・処分について
 - 2年度産地交付金メニューについて
 - 令和2年度7月期(半期)ディスクロージャー誌について
 - 管理委員会の結果報告について
 - 生産委員会の結果報告について
 - コンプライアンス委員会報告について
 - ALM委員会報告について
 - 内部監査の結果について
 - 経営定期点検の結果について
 - JAとまこまい広域杯少年サッカー大会について
 - 「たんとうまい」新米贈呈について
 - 2年産小麦の調製状況について
 - 不祥事・事故発生に係る関係職員の処分について
 - 追分支所給油所不祥事の経過報告について
 - 不祥事再発防止策の進捗状況について
 - 本所経営指導委員会報告について
- 特定組合員の6月末実績と年度見込みについて
■特定組合員資産状況確認結果
■大口貸出先上位50件の経営状況報告
■信用供与50,000千円を超える組合員の経営状況報告



広域管内、稻刈り続々と始まる 実りの秋を迎える



水稻稳実調査及び適期刈取調査

9月2日から穂別支所を皮切りに各支所で水稻の稳実調査が開始された。9月に入つてからも暑さが残る中、各圃場から調査穂を探取し穗ごとに粒数と稳実の状態を調査した。北海道農政事務所の9月15日現在の作柄概況では、分けつ期の6月中旬～下旬にかけて日照不足となつたが、7月以降好天が続き幼穗形成が順調に進み生育も回復。8月中旬以降の登熟期も比較的好天が続き生育良好で推移し、全国平均作況指数は「101 平年並」。北海道全体は「105 やや良、胆振では「107 良」と見込まれると発表した。

厚真地区では9月9日、適期刈取調査が厚真町上野地区のたんとうまいSTで行われ、各生産者がそれぞれ調査用の稻穂を持ち寄つた。持ち寄られた稻穂を脱穀粉摺り、ふるいにかけて網上と網下に分け、最後に測定機で各項目の数値を計り、適期刈取時期の判断を行つた。早期刈り取りの生産者では10日過ぎ、ピークは20日前後になると予測された。

各支所稻刈り始まる

9月8日、穂別地区の長岡定男さんと清川正さんが広域管内では稻刈りをスタートさせた。品種

ななつぼしを中心に行われている。早来19日、追分19日、厚真11日に各支所それぞれ稻刈りがスタートした。厚真地区では、適期刈取調査の通り20日頃に収穫のピークを迎えた。たんとうまいSTへ続々と刈り取られた粉が持ち込まれた。

広域管内の令和2年度産は2,285haが付けられ、11,470tの販売取扱量を予定している。

軽舞生産組合(水稻栽培共同)

軽舞生産組合(以下、生産組合)では4月24日水稻の播種作業が開始された。播種作業は5戸の生産者が一堂に集まり1日をかけて行われた。田植えまでの苗管理には、田ごとに管理担当者を決め、それぞれの責任により管理されている。苗の管理には1か月かかり、5月26日からの3日間で約9haの水田へ田植えが開始された。収穫までには防除・畦の草刈りなど共同で行い、9月27日には稻刈りが始まった。昨年より1日早い開始。※作付けされている品種は全て「ななつぼし」

生産組合は昭和53年にビート育苗・収穫など転作用の機械を導入し、機械の共同利用を目的に軽舞地区の13戸で設立された。現在は戸数が5戸まで減少したが、主にビートの収穫作業と生産組合で賃借した土地約9haに水稻の作付けを行つてゐる。

生産組合の共同利用について斎藤義幸組合長は「まずは現在の5戸の戸数を維持したい。共同利用することで農機のコスト削減や、各々が協力し合うことで人員確保が容易になることなどをメリットが多いため現在の体制を継続していきた」と話した。





▲稲刈り風景



▲稲刈り後、集合写真

苦小牧酒販協同組合のみのり会（平田幸彦部会長）は9月27日、厚真町富里地区の佐藤泰夫さんの水田の一部で純米吟醸酒「美吉」の原料米となる品種「彗星」の稻刈り体験を行った。一般消費者をはじめ関係者ら16名が参加した。平成13年から北海道中小企業家同友会苦小牧支部が事務局となり活動してきたが、さらなる活動推進に向け昨年より同支部から独立し、苦小牧酒販協同組合が事務局となり今年で活動2年目を迎えた。市民や消費者へ田植え・稻刈り作業体験や生産者・蔵元等との交流活動の場が提供されている。今年5月24日には田植え体験、今回の稻刈り体験が行われた他、11月には小樽市にある蔵元の田中酒造㈲が事務局となり活動してきたが、さらなる活動推進に向け昨年より同支部から独立し、苦小牧酒販協同組合が事務局となり今年で活動2年目を迎えた。

JAとまごまい広域の宮田広幸組合長は9月1日、厚真町富里地区の佐藤泰夫さんの水田の一部で純米吟醸酒「美吉」の原料米となる品種「彗星」の稻刈り体験を行った。一般消費者をはじめ関係者ら16名が参加した。平成13年から北海道中小企業家同友会苦小牧支部が事務局となり活動してきたが、さらなる活動推進に向け昨年より同支部から独立し、苦小牧酒販協同組合が事務局となり今年で活動2年目を迎えた。市民や消費者へ田植え・稻刈り作業体験や生産者・蔵元等との交流活動の場が提供されている。今年5月24日には田植え体験、今回の稻刈り体験が行われた他、11月には小樽市にある蔵元の田中酒造㈲が事務局となり活動してきたが、さらなる活動推進に向け昨年より同支部から独立し、苦小牧酒販協同組合が事務局となり今年で活動2年目を迎えた。

JAとまごまい広域は8月31日と9月2日、厚真町の上野地区にある馬鈴薯選果場（以下、選果場）で緊急に夜間選果を実施した。今年は8月6日から収穫が開始され13日に初選果を迎えた。厚真町では16日～28日まで降水量が観測されており、メークインの収穫が進み一斉に選果場へ持ち込まれた。収容能力を超える量が持ち込まれたことで選果が追い付かず、8月26日～30日の受け入れを停止し夜間選果に踏み切った。夜間選果にはパートをはじめ職員が応援に駆け付け、2日間で約3,000ケース（1ケース／10kg）の選果が行われ終了した。



▲説明会終了後の登録の様子



▲会場へ入場前に消毒をする

JAとまごまい広域は8月31日と9月2日、厚真町の上野地区にある馬鈴薯選果場（以下、選果場）で緊急に夜間選果を実施した。今年は8月6日から収穫が開始され13日に初選果を迎えた。厚真町では16日～28日まで降水量が観測されており、メークインの収穫が進み一斉に選果場へ持ち込まれた。収容能力を超える量が持ち込まれたことで選果が追い付かず、8月26日～30日の受け入れを停止し夜間選果に踏み切った。夜間選果にはパートをはじめ職員が応援に駆け付け、2日間で約3,000ケース（1ケース／10kg）の選果が行われ終了した。

JAとまごまい広域の宮田広幸組合長は9月1日、厚真町の上野地区にある馬鈴薯選果場（以下、選果場）で緊急に夜間選果を実施した。トッピングインタビューは、農業新聞に定期的に日本全国の組合長が特集され掲載されている。



▲苗を手に取りこれから田植え（5月）



▲田植え風景（5月）

広域

美苦みのり会稻刈り体験

地場の素材を活かした地酒づくり



▲インタビューを受ける組合長

地域の話題を
パチリと

カメラレポート

組合長取材を受ける

農業新聞トッピングインタビュー



▲質問へ返答する組合長

北海道胆振東部地震から9月6日で2年。農地の復旧は9割以上に進むが、復旧作業で排出される土砂の仮置き場となる農地もあり、未だに営農に従事することができない生産者もいることが事実。完全に以前の状況に戻つてこそ復興したと言える。

着々と復興が進む中、現在の状況や今後の課題、コロナ禍による影響や必要な対策など様々な質問が飛んだ。JAとまごまい広域として1番力を入れていることはと問われ宮田組合長は「組合員の生活を守ること」と一言。「いかにして現状に戻すかが1番大事。戻すために人的面・資金面・生活面・精神面の部分の支援を心がけている」と述べた。また広域なJAで色々な面で多様性があることや進むべき道を指示すことへの迷い等はないかという問い合わせに「組合員のためのことが根幹にあるため迷うことはない」組合員のために何をすることが最善なのかを考えることしかない」と回答した。JAは組合員が立ち上げた協同組合であり、組合員、役職員、地域の力を結集してJAの意義を發揮していくたいと述べインタビューは終了した。

今回取材された記事は9月15日の日本農業新聞に投稿された。

広域

農業パート募集説明会開催

近隣地域から働き手確保へ



▲夜間選果する職員と応援に駆け付けた木戸馬鈴薯生産組合長（左から2番目）



▲選果レーンをながれるメークイン

広域

メークイン夜間選果

職員対応

JAとまごまい広域は8月31日と9月2日、厚真町の上野地区にある馬鈴薯選果場（以下、選果場）で緊急に夜間選果を実施した。今年は8月6日から収穫が開始され13日に初選果を迎えた。厚真町では16日～28日まで降水量が観測されており、メークインの収穫が進み一斉に選果場へ持ち込まれた。収容能力を超える量が持ち込まれたことで選果が追い付かず、8月26日～30日の受け入れを停止し夜間選果に踏み切った。夜間選果にはパートをはじめ職員が応援に駆け付け、2日間で約3,000ケース（1ケース／10kg）の選果が行われ終了した。

9月5日現在では、市況はAL規格1,200円～1,300円と平年並みに推移し順調に収穫・選果作業は進んでいる。またメークインの選果作業は10月まで続き、主に中部・近畿・中国・四国・九州地方へ出荷される。



▲倉庫いっぱいに積み上げられた原料

JAとまごまい広域は8月31日と9月2日、厚真町の上野地区にある馬鈴薯選果場（以下、選果場）で緊急に夜間選果を実施した。今年は8月6日から収穫が開始され13日に初選果を迎えた。厚真町では16日～28日まで降水量が観測されており、メークインの収穫が進み一斉に選果場へ持ち込まれた。収容能力を超える量が持ち込まれたことで選果が追い付かず、8月26日～30日の受け入れを停止し夜間選果に踏み切った。夜間選果にはパートをはじめ職員が応援に駆け付け、2日間で約3,000ケース（1ケース／10kg）の選果が行われ終了した。

JAとまごまい広域は8月31日と9月2日、厚真町の上野地区にある馬鈴薯選果場（以下、選果場）で緊急に夜間選果を実施した。今年は8月6日から収穫が開始され13日に初選果を迎えた。厚真町では16日～28日まで降水量が観測されており、メークインの収穫が進み一斉に選果場へ持ち込まれた。収容能力を超える量が持ち込まれたことで選果が追い付かず、8月26日～30日の受け入れを停止し夜間選果に踏み切った。夜間選果にはパートをはじめ職員が応援に駆け付け、2日間で約3,000ケース（1ケース／10kg）の選果が行われ終了した。

JAとまごまい広域は8月31日と9月2日、厚真町の上野地区にある馬鈴薯選果場（以下、選果場）で緊急に夜間選果を実施した。今年は8月6日から収穫が開始され13日に初選果を迎えた。厚真町では16日～28日まで降水量が観測されており、メークインの収穫が進み一斉に選果場へ持ち込まれた。収容能力を超える量が持ち込まれたことで選果が追い付かず、8月26日～30日の受け入れを停止し夜間選果に踏み切った。夜間選果にはパートをはじめ職員が応援に駆け付け、2日間で約3,000ケース（1ケース／10kg）の選果が行われ終了した。



▲説明会の様子



▲職員による農作業で使用する服装の説明

JAとまごまい広域は8月31日と9月2日、厚真町の上野地区にある馬鈴薯選果場（以下、選果場）で緊急に夜間選果を実施した。今年は8月6日から収穫が開始され13日に初選果を迎えた。厚真町では16日～28日まで降水量が観測されており、メークインの収穫が進み一斉に選果場へ持ち込まれた。収容能力を超える量が持ち込まれたことで選果が追い付かず、8月26日～30日の受け入れを停止し夜間選果に踏み切った。夜間選果にはパートをはじめ職員が応援に駆け付け、2日間で約3,000ケース（1ケース／10kg）の選果が行われ終了した。



▲自由献花の様子(厚真町提供)

関連死含めて44名の尊い命が犠牲となり、重傷者は51名にのぼった。震源地の厚真町では山腹崩壊が起り、民家が土砂に飲み込まれるなどして37名が犠牲となつた。

多くの工事も着々と進み、農地災害復旧は概ね完了している。しかし未だに仮設住宅での避難生活を送る方や農地が土砂置き場となり営農できていない農家もいる現状だ。

北海道胆振東部地震から2年で初となる震度7を観測し、灾害対策を講じた。

2018年9月6日午前3時7分に北海道では初となる震度7を観測し、災害対策を講じた。

厚真町の総合福祉センターでは9月5日、北海道胆振東部地震から丸2年を迎えるに当たり町主催による追悼式が執り行われた。遺族や町民ら約130名が参列し、献花台に花を手向け犠牲者の冥福を祈つた。今年の追悼式は、新型コロナウイルス感染症対策として式典を大幅に短縮。追悼式では席の空間を空けるなど3密(密閉、密集、密接)を回避した他、5日から6日までの2日間にわたり来場者が自由に献花できる方式を採用し感染対策を講じた。

宮坂尚一朗厚真町長による追悼メッセージ(厚真町提供)



▲初出荷された米を検査する検査員

令和2年産米の初検査が9月18日、JAとまこまい広域稲別支所米検査場にて行われ、茂別地区の清川正さん・平丘地区の清川伊代さん・安住地区の森本敏規さんが初出荷を飾つた。

当日は、「ななつぼし」546袋(30kg袋)と「おぼろづき」34袋(30kg袋)が検査され、全量1等米という幸先の良いスタートとなつた。その内、252袋はタンパク値6・8%以下の「低タンパク米」となつた。

本年の水稻は天候不順などで出来秋が心配されたが、9月上旬に行われた収量調査結果で平年以上の収量が見込まれ、今後の出荷にも期待ができる。

初出荷に合わせて行われたセレモニーでは、宮田広幸組合長の他、むかわ町の竹中喜之町長や各関係機関が出席し、清川正さん・清川伊代さん・森本敏規さんらに記念品を贈呈した。



▲初出荷を飾った森本さん(写真左)、清川正さん(写真中央)、清川伊代さんの父三十四さん(写真右)

厚真

厚真町で追悼式

北海道胆振東部地震から2年



▲刈取細断されたデントコーンをトラックへ

304haあり、自走式ハーベスターで刈り取られ細断されたデントコーンは、大型ダンプ等で各生産者のもとへと運ばれ、サイレージへ調製されている。

今年の作柄について担当者は、「8月上旬の強風により、一部、倒伏や半倒伏の被害はあつたが、総じて生育は順調に進み収量は多い。良質なデントコーンサイレージを給与することで乳量の増加に期待したい」と話した。

作業は順調に進み10月中旬まで行われた。



▲デントコーン収穫風景

地域の話題を
パチリと

カメラレポート

苦小牧・早来
厚真

「らくのう」デントコーン収穫

集団共同利用で、農作業効率化

9月1日、農事組合法人「らくのう」(谷口隆昌組合長)によるデントコーンの収穫作業が始まった。

農事組合法人「らくのう」は、JAとまこまい広域管内における酪農及び各農業分野の生産者によって構成され、ハーベスター等を導入し、集団共同利用することで農作業効率化、労働生産性向上と地域農業の安定化を図る目的で設立されたコントラクターで、取組開始から6年目を迎える。

今年度の収穫作業面積は、厚真地区・早来地区・苦小牧地区 計21件分で約

J Aとまこまい広域の広域女性部の厚真支部では、広域オリジナル商品「なんばんみそ」の仕込みが厚真町にあるJAばんみそ」の仕込みが厚真町にあるJAめやみりんで味付けしている。同商品は平成16年から広域オリジナル商品として製造され、口に含むとみその甘みが広がり最後になんばんのピリツとくる辛さがあり、長年多くのお客様に愛される商品となっている。

なんばんみその仕込みは例年2度行われ、今年は8月27日と9月11日に行われた。仕込み作業はなんばんを細かく刻み、商品となっている。

なんばんみその仕込みは例年2度行われ、今年は8月27日と9月11日に行われた。仕込み作業はなんばんを細かく刻み、商品となっている。

なんばんみその仕込みは例年2度行われ、今年は8月27日と9月11日に行われた。仕込み作業はなんばんを細かく刻み、商品となっている。

JAとまこまい広域女性部仕上がりの見極めは、少し色が黒くなつていてへラですぐつても落ちない程度だといふ。今年は約330kgを仕込み、随時小袋に入れAコースなどで販売される。佐藤美奈子女性部長は「暑い中、頑張つて丹精込めて女性部で作っているので、ぜひ食べてください」と述べた。



▲完成した「なんばんみそ」



▲2時間かき混ぜる作業

厚真

なんばんみそ仕込み始まる

広域女性部厚真支部

2年前を風化させず、災害へ備えるために 「防災の日」と定める

JAとまこまい広域では9月7日、常勤役員が各支所へ出向き平成30年9月6日に発生した「北海道胆振東部地震」で亡くなられた方々へ默祷及び災害への備えやJAの社会的役割について訓示の唱和が行われた。

発生から9月6日で2年を迎える中、大災害を風化させることなく、今後の予測不能な災害に備えるため、毎年9月6日をJAグループ北海道「防災の日」と位置づけ、9月1日が日本の「防災の日」であることから、毎年9月1日から6日を防災期間に位置付けることにした。当JAにおいても震災を教訓として災害についての認識を深め、災害に対する心構えと備えを充実することにより被害の未然防止と軽減をはかることを目的にJAとまこまい広域でも独自に毎年9月6日を「防災の日」として定めた。今年は6日が日曜日に当たるため翌日の7日に実施した。

本所では防災の日に宮田組合長は「2年前に犠牲になられた方々に哀悼の意を表するとともに、震災からの復興を誓い災害の教訓を風化させることなく、突然の災害に備えなければなりません」と挨拶し、本所をはじめ各支所では以下の点の点検を実施し防災の日は終了した。



▲震災で亡くなられた方へ黙祷を捧げる様子



▲当JAのめざす方向と職員の役割を唱和

防災の日での取り組み内容

1. 非常時備蓄品の備品リストの点検

- ①本支所保管の災害用備品の保管状態、数量、使用期限
- ②保管場所、収納物品の周知
- ③自家発電機の試運転と使用方法の再確認

2. 避難経路及び避難訓練実施計画の確認

- ①避難訓練の実施
- ②経路上及び避難口に書類が置かれていないか確認

3. 緊急連絡網の確認

- ①名簿の整理確認
- ②各自連絡体制の確認



▲給油所の緊急用発電機の稼働点検

地域の話題を
パチリと

カメラレポート



広域

准組イベント「秋のいも掘り体験」開催

秋の美味しい味覚



▲集合写真



▲いも掘り体験の様子②



▲いも掘り体験の様子①



▲今年の芋(メークイン)



▲いも掘り体験の様子③

今年度は、コロナ禍の終息に目処が立っていない状況ではあるが、感染対策として参加人数を昨年の約半分に制限し規模縮小や、例年も掘り体験終了後には昼食会としてバーベキューを提供していたが中止とし、できるだけ接触を避ける形での開催となつた。

いも掘り体験の会場へ駆けつけた宮田広幸組合長は「人との接触が危惧される状況下ではありますたが、本日はご参加頂き誠に有り難うございます。准組合員の皆様には、今後ともJA事業をさらに理解ご利用頂き、是非JAとまこまい広域のファンになつて頂きたいと思います」と挨拶した。

JAとまこまい広域は8月29日、厚真町の豊丘地区において准組合員イベントとして「秋のいも掘り体験」を開催した。同イベントは、農業体験を行うことで農業への理解伸長、JA事業を利用いただけのファンの拡大、准組合員との交流を図ることを目的として、今年で5回目の開催を迎えた。「夏の貯金キャンペーン」の副賞及び一般応募の中から当選した75名が参加した他、各支所より14名のJA職員が出役した。

J Aとまこまい広域は8月29日、厚真町の豊丘地区において准組合員イベントとして「秋のいも掘り体験」を開催した。同イベントは、農業体験を行うことで農業への理解伸長、JA事業を利用いただけのファンの拡大、准組合員との交流を図ることを目的として、今年で5回目の開催を迎えた。「夏の貯金キャンペーン」の副賞及び一般応募の中から当選した75名が参加した他、各支所より14名のJA職員が出役した。

JAとまこまい広域は8月29日、厚真町の豊丘地区において准組合員イベントとして「秋のいも掘り体験」を開催した。同イベントは、農業体験を行うことで農業への理解伸長、JA事業を利用いただけのファンの拡大、准組合員との交流を図ることを目的として、今年で5回目の開催を迎えた。「夏の貯金キャンペーン」の副賞及び一般応募の中から当選した75名が参加した他、各支所より14名のJA職員が出役した。



失敗を糧にして粘り強く農業を



新戸部 久典さん(43歳)
安平町追分豊栄

語る。
「自分が食べたい、大切な人に食べて欲しい野菜を育てたい。そ
の魅力に惹かれた」と話す新戸部さん。

就農のきっかけは「子どもが生まれたことと家庭菜園を始め、[食]と[自然環境]に大きく関わる農業の大切さに改めて気付か
れ、また[仕事]と[暮らし]を区別することなく生きられる農業

「自分が食べたい、大切な人に食べて欲しい野菜を育てたい。そ
の魅力に惹かれた」と話す新戸部さん。

就農のきっかけは「子どもが生まれたことと家庭菜園を始め、江別市の大学を卒業後、2000年に会社員として札幌市で就職し、仙台、東京へと転勤。2014年に夫婦で安平町追分の小路健男さんの下で2年間研修し、2016年に新規就農者として就農。現在は「ROOT Farm」の代表として夫婦で農業を営んでいる。

農業の魅力に惹かれ

就農のきっかけは「子どもが生

まれたことと家庭菜園を始め、

江別市の大学を卒業後、

2000年に会社員として札

幌で就職し、仙台、東京へと転

勤。2014年に夫婦で安平

町追分の小路健男さんの下で

2年間研修し、2016年に新

規就農者として就農。現在は

「ROOT Farm」の代表と

して夫婦で農業を営んでいる。

農業の魅力に惹かれ

就農のきっかけは「子どもが生

まれたことと家庭菜園を始め、

江別市の大学を卒業後、

2000年に会社員として札

幌で就職し、仙台、東京へと転

勤。2014年に夫婦で安平

町追分の小路健男さんの下で

2年間研修し、2016年に新

規就農者として就農。現在は

「ROOT Farm」の代表と

して夫婦で農業を営んでいる。

農業の魅力に惹かれ

就農のきっかけは「子どもが生

まれたことと家庭菜園を始め、

江別市の大学を卒業後、

2000年に会社員として札

幌で就職し、仙台、東京へと転

勤。2014年に夫婦で安平

町追分の小路健男さんの下で

2年間研修し、2016年に新

規就農者として就農。現在は

「ROOT Farm」の代表と

して夫婦で農業を営んでいる。

ホクレン南北海道黒毛和種市場 広域農協支所別取引成績(9月)

令和2年9月2日

	性別	成立頭数 (頭)	価格平均 (円)	平均日齢/体重 (kg)	平均kg/単価 (円)
白老	去勢	37	711,946	1.191	2,066
	雌	35	558,257	1.009	1,793
苦小牧	去勢	7	677,143	1.154	1,998
	雌	2	539,000	1.034	1,773
早来	去勢	41	671,000	1.182	1,932
	雌	23	583,696	1.093	1,775
厚真	去勢	31	698,129	1.208	1,988
	雌	29	558,069	1.063	1,755
穂別	去勢	28	691,571	1.183	2,033
	雌	28	576,286	1.079	1,791
追分	去勢	5	656,800	1.157	2,022
	雌	4	590,500	1.050	1,992
とまこまい 広域	去勢	149	690,490	1.188	2,002
	雌	121	567,967	1.055	1,786
胆振管内	去勢	242	696,884	1.182	2,049
	雌	184	565,217	1.056	1,790
市場計	去勢	896	649,102	1.150	1,945
	雌	642	548,752	1.026	1,765

北海道地方 3ヶ月予報

予報期間/10月~12月
令和2年9月25日 札幌管区気象台発表

気温予想

3カ月	低20%	並40%	高40%
10月	低20%	並30%	高50%
11月	低30%	並40%	高30%
12月	低30%	並30%	高40%

降水量予想

3カ月	低30%	並30%	高40%
10月	低30%	並40%	高30%
11月	低30%	並40%	高30%
12月	低20%	並40%	高40%

10月

11月

12月

北海道日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わることがあります。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。北海道オホーツク海側・太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。気温は、高い確率50%です。

北海道日本海側・オホーツク海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。北海道太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

北海道日本海側・オホーツク海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。北海道太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。降水量は、北海道太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

出典:http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/101_10.html
気象庁ホームページ/防災情報/季節予報/北海道地方3ヶ月予報より

令和
2年度

JAとまこまい広域杯 少年サッカー大会



胆振管内のJAとまこまい広域では9月27日、安平町のはだしの広場で「JAとまこまい広域杯 少年サッカー大会」を開催した。当JA管轄地域をはじめ空知・石狩地区などから全11チーム(U-9 5チーム、U-12 6チーム)が参加した。今年は新型コロナウイルスへの感染を考慮し、昨年の20チーム参加から大幅にチーム数を削減し大会を実施した。

同大会は、地域住民への「食」と「農」に対する理解を促進するため地元少年サッカーカラーブチームとの連携を図り、サッカー大会を通じて次代を担う子供たちや親の世代へ地域農業の役割やその重要性を伝達・継承し、JA地域社会の関係構築を図ることを目的に開催され今年で4回目を迎える。



▲集合写真



▲フェリーレ FC(早来)の選手による選手宣誓



▲U-9試合の様子



▲芋詰め体験の様子



▲U-12の優勝決定戦の様子(ユニフォーム青 sabio、ユニフォーム紫くりやま)



▲U-12試合の様子



長雨に負けない 排水対策のポイント

1 はじめに

排水対策は、ほ場の状態を十分に把握した上で、どのような対策が望ましいかを判断することが重要です。排水不良の「要因」に対応した排水対策のポイントを紹介します。

2 排水対策のポイント

(1)「透水性」の改善方法

要 因	対 策
① 暗きよの効きが悪い、または暗きよが効いていないが、耕盤層が形成されていることが考えられる。	・暗きよの効きが悪い場合は、 暗きよの出口が土砂に埋もれていかないか確認 し、埋まっている場合は 明きよ(排水路) の底ざらえなどをして排水を促す。 ・暗きよは効いているが、透排水性が悪い場合は 心土破碎 を実施する。
② 枕地やほ場に凹凸など、雨水がたまりやすいところがある。	・表面滞水が頻発する場合は、低地や窪地を対象にした 客土 や ほ場内明きよによる排水 も有効となる。 ・表面滞水は、 溝切り (ほ場内作溝明きよ)に集めて排水させる。なお、 溝は明きよや落水口につなぐ など、集めた水をほ場外に排出させる。
③ 土壤中の腐植含量が少ない、または粘土質である。	・ 堆肥などの有機物施用 を行って、土壤の構造を徐々に団粒化させる。
④ 土が湿っている時に作業機をほ場に入れるなど、練り返しを行った。	・作業機をほ場に入れる時は、できるだけ 土の乾いている時期 に行う。

(2)「硬さ」の改善方法

要 因	対 策
① プラウ作業やロータリー耕を行う際に耕起層直下が圧密され耕盤層が形成される。プラウ耕起時に土が多湿であると練り返しも加わり、より硬い耕盤層が形成される。	・暗きよが効いているが、透排水性が悪い場合は 心土破碎 を実施する。 ・心土破碎を効果的に行う条件 ① 土が乾いている ② 十分な深さ(耕盤層が破碎できる深さ) ③ 歩く早さでゆっくり ④ 暗きよと交差するように施工する。
② 心土破碎を実施していない、または心土破碎のやり方に問題点がある。	

(3)上記以外の対策

農家自ら改善できることには限界があります。降雨後も暗きよ管から水が出ない場合や、サブソイラーでは破碎できないような深さに下層土に堅密土壤がある場合は、事業等を活用し「パンプレーカー」の施工を検討しましょう。



ワンポイント営農情報

手軽に真っ直ぐ ホクレンRTKシステム(JA基地局開設)



概要については、燐々4月号を参照してください。

道内利用状況 参加JA 49 利用者数ID 2,295件 基地局数 31基 ※2020.8.21時点

- 人工衛星からの信号の他に、地上にある基地局(JA設置受信アンテナ)からの補正信号を受信することで、誤差±2~3cmで正確な軌跡をたどります。
- JA本所のアンテナにトラブルが起こっても、即座に近隣のアンテナに切り替え、補正情報が途切れず対応を行っています。
- スマートフォン(トラクター用の専用が望ましい)アプリ*を利用しますので、携帯電波の受信状況により、利用出来ないエリアがあります。※アプリはインストールする必要があります。

詳しくは、各支所営農担当者にお気軽にお電話ください。

シリーズ NO.11 翌年の育苗改善に向けて

～育苗中の病害に注意～

今年は、育苗初期から苗立枯病の発生が見られました。特に、育苗後半の発生が多いピシウム菌による被害が5月連休前から見られていました。これは、は種後の低温・日照不足と5月に入っての急激な高温が、立枯病菌に感染しやすい条件となったと思われます。

また、ピシウム菌は水量の少ないたまり水の使用により、苗床に入り込む場合もあります。立枯病は対策が遅れるほど被害が大きくなります。

薬剤は、は種後早い段階での予防的使用を心がけましょう。



ピシウム菌によるムレ苗症状

表 立枯病薬剤の防除効果

	ダコニール	タチガレンエースM	タチガレン	ナエファイン	症 状
リゾーブス菌	○			○	白いカビが発生し、根の伸張が止まる。
フザリウム菌		●	○	○	根が褐変し、地上部は萎凋。粉に淡紅色のカビが見られる。
ピシウム菌		●	○	○	症状はフザリウム菌と類似。地際にカビは見られない。

※○:予防効果 ●:予防治療効果

JA北海道中央会



本年9月6日で北海道胆振東部地震の発生から丸2年が経ちました。

JAグループ北海道では、2年前の大災害を風化させないよう、毎年9月6日をJAグループ北海道「防災の日」と定め、改めてJA・組合員の防災意識の向上や今後の災害への備え、施設補強、自家発電機の一斉点検等の推進を致します。また、9月1日から9月6日を「防災期間」として位置付け、全道の組合員に呼びかけ、自家発電機やハウス等の一斉点検に取り組んでいただきました。

新型コロナウイルスの影響を受け、感染防止対策に取り組むだけでなく、地震や台風などの自然災害に対する危機意識や防災意識を高めることも、安全安心に暮らす上で、また日々の営農においても必要不可欠です。

JAグループ北海道では、今後も予測不能な災害に備えるため、防災対策を推進していきます。



JA北海道信連



JAと北海道信連との間で相互に職員を出向派遣させる、人事交流を平成22年度から実施しています。先ごろ、第5回の人事交流(2年間)が終了しました。今回は、JA北ひびき1名、JA鹿追町1名の職員が北海道信連へ、北海道信連から各JAに1名ずつの職員が出向する形で人事交流を行いました。これらの人事交流を通じて、JAバンク北海道の体制・機能強化と人材育成を図ることとしています。



ホクレン



ホクレンとカルビー株式会社は8月5日、馬鈴しょをはじめとする北海道産農産物の振興に向けた包括連携協定の調印式を札幌で開きました。式では、ホクレンの篠原末治会長(写真右)、カルビーの伊藤秀二社長がそれぞれ、双方の強みを生かした事業展開に向けた意欲を語り、その第一弾として、ホクレンの「よくねたいも」を原料に開発したポテトチップスの新商品の発売を発表しました。



JA共済連北海道



近年の、道路運送車両法の運用見直しに伴い、農耕用トラクターに作業機を装着した場合でも、条件を満たせば公道を走行できるように緩和されました。

ただし、走行時には作業機の後方に規制緩和対象であることの『制限標識』を表示することが必要となります。そこで、JA共済連では、『運行速度時速15キロ以下』などと記載された『制限標識』を配布する事と致しました。これにより、接触事故・死亡事故の防止やトラクターの安全な走行に寄与出来ることを期待しております。



JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るために、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。

年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご覧ください。



JAグループ北海道の連合会の活動内容を紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

News & Topics from JA

JA日誌

2020 10月

- 16日(金) 高卒採用試験
- 17日(土)
- 18日(日)
- 19日(月) 共済連運営委員会(札幌)
- 20日(火) 第9回企画会議
- 21日(水) 不祥事再発防止検討会
- 22日(木) 経営会議、ホクレン村木副会長来所
- 23日(金) 大卒採用試験
- 24日(土)
- 25日(日)
- 26日(月)
- 27日(火) 北海道農協検査～30日
- 28日(水)
- 29日(木)
- 30日(金)
- 31日(土)

2020 11月

- 1日(日)
- 2日(月)
- 3日(火)
- 4日(水) ホクレン肉牛市場
- 5日(木)
- 6日(金) ホクレン乳牛市場
- 7日(土)
- 8日(日)
- 9日(月) 新任常勤理事2年目研修～10日(JAカレッジ)
- 10日(火) 北農健保組合議員研修会(札幌)、課長塾(1班)
- 11日(水) 課長塾(2班)
- 12日(木) 中央会経営監査～13日
- 13日(金) 第4回コンプライアンス委員会、追分支所スポーツ大会
- 14日(土) 令和2年度 日胆黒毛和種枝肉共励会(十勝)
- 15日(日)

※新型コロナウイルスの影響により中止となる場合がありますのでご了承下さい。

JA
からの
お知らせ

農協法公布記念日

昭和22年11月19日に農業協同組合法が制定され、戦後の食糧不足の混乱期に、農業者の協同組織の発達を通じ、「農業生産力の増進」と「農業者の経済的・社会的地位の向上」を図り、国民経済の発展に寄与することを目的として、農協法が制定され農協が設立されました。当JAにおいても、11月19日に農協法公布記念日の訓示が行われます。

新採用職員紹介

10月1日付で新たな職員が加わりました。

- ①氏 名 坂口 元(さかぐち げん)
- ②配 属 先 経済部生活課Aコーブ穂別店
- ③生 年 月 日 平成5年6月26日
- ④出 身 地 留萌市
- ⑤最 終 学 歴 日本工学院北海道専門学校
- ⑥趣 感 特技 石集め
- ⑦一 言 施されたら施し返す恩返しの精神で頑張ります。



人事異動 (旧役職) 10月1日付

- | | |
|-------|--|
| 高橋 茜 | 経済部機械燃料課(企画管理部) |
| 下田奈穂子 | 追分支所営農農産課営農係兼金融共済課管理係
(企画管理部情報経理課経理情報係) |

お悔やみ

謹んでご冥福をお祈りいたします。



月 日	地 区	氏 名	享 年
9/1	安平町	武田 節子さん	89
9/3	厚真町	山川 真一さん	69
9/7	厚真町	升田 一男さん	88
9/13	安平町	堀 星男さん	86
9/22	安平町	吉田 晴雄さん	77
9/29	厚真町	山田カズエさん	94